数学

Ⅰ　教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領（平成29年3月）に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

1　教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長		
共通観点	(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。
	(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
2　学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長		
共通観点	(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。
	(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。
	(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。
教科独自観点	(4)	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感することができるよう工夫されているか。
	(5)	一度学習した内容を再度学習できるようにするなど、学び直しの機会が適切に設定されているか。
	(6)	各領域の内容を関連付けて見いだした課題を解決したり、解決の過程を振り返って考えを深めたりする学習ができるよう工夫されているか。
3　学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長		
共通観点	(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。
	(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

Ⅱ　選定資料利用上の留意点

1　資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。

2　利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。

3　前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

観点	発行者	東　書	大日本
1	教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長		
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。	「数学×仕事」では、仕事で数学を活用している人を紹介することで、知識や教養を身に付けるとともに、職業観が培われるよう配慮されている。	「社会にリンク」では、様々な職業において、数学がどのように使われているかを紹介することで、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、勤労を重んずる態度を養うことができるよう配慮されている。
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。	２年「１次関数」において、五島市におけるドローンを使って薬を届ける実証実験に関する問題が掲載され、１年「空間図形」においては、「江迎千灯籠まつり」の写真が掲載されている。	１年「データの分析」の「都道府県別中学校数」において、長崎県のデータが掲載されている。
2	学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長		
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。	必ず解けるようになるべき問題に「♥マーク」を付し、その問題の理解を確実にしてから他の問題に取り組む構成とすることで、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。	「活動」「例」「例題」を適切に配置することで、学習を通して学ぶべきことを見いだし、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。	「深い学び」のページで、問題発見・解決の過程を示し、問題解決の進め方を意識しながら取り組ませることで、数学的な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	全章を通して、見いだした問題を基に学習のめあてを設定し、数学的活動に主体的に取り組ませることで、数学的な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。	「MATH CONNECT」をキーワードとして、数学どうしのつながりや、身の回りや社会と数学とのつながりを示すことで、数学の必要性を実感し、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	巻頭の「数学の世界へようこそ」では、問題発見・解決の流れや働かせたい見方・考え方の例を示すことで、問題解決に対して主体的に取り組むことができるよう工夫されている。
(4)	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感することができるよう工夫されているか。	「章とびら」「深い学び」で、日常生活や社会の問題を解決したり、数学の新しい性質を見いだしたりする活動を取り扱うことで、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感できるよう工夫されている。	「MATHFUL」では、学習内容に関連した数学の歴史や生活とのかかわりを紹介することで、数学のよさや数学が役に立つ教科であることを実感することができるよう工夫されている。
		数学を使って、学校生活や私生活で感じた疑問の解決を図る場面を想定した「身のまわり」マークを適宜付すことで、数学の有用性を実感することができるよう工夫されている。	「課題学習」では、既習内容を使って考える課題を例示し、身の回りや数学の学習で疑問に思ったことを課題に選び、取り組めるようにすることで、数学のよさを実感することができるよう工夫されている。
(5)	一度学習した内容を再度学習できるようにするなど、学び直しの機会が適切に設定されているか。	側注に「ちょっと確認」を設けることで、既習事項において、つまずきの多い内容の確認ができるよう工夫されている。	「プラスワン」や「補充問題」で、問題演習の機会を増やすことで、学習内容の定着を図るとともに、個に応じた自主的な取組ができるよう工夫されている。
		巻末に、当該学年の学習の土台となる内容を振り返ったり、問題形式で確認したりする「学びのベース」を設けることで、学習内容の定着を図ることができるよう工夫されている。	章末の学習全体の問題や巻末の前学年の振り返りなど、多くの問題に取り組む機会を設けることで、学習内容の定着を図ることができるよう工夫されている。
(6)	各領域の内容を関連付けて見いだした課題を解決したり、解決の過程を振り返って考えを深めたりする学習ができるよう工夫されているか。	「大切にしたい数学の学び方」で、「見通しを立てる」「深める」といった視点を、学びを深めるための吹き出しとして示すことで、考えを深めることができるよう工夫されている。	「活用・探究」や巻末の「もっと数学の世界へ」の課題学習で、習得した知識を生かして問題を解決し、問題作りに取り組む場面を設定することで、考えを深めることができるよう工夫されている。
		「学びをふり返ろう」や「大切にしたい見方・考え方」「数学の目でふり返ろう」など、学習を振り返る機会を随所に設けることで、考えを深めることができるよう工夫されている。	「学びにプラス」で、学習したことを基に別の考え方や逆の見方をしたり、既習事項と結び付けて広げたりする課題を設定することで、考えを深めることができるよう工夫されている。
3	学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長		
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。	文章を文節など言葉の切れ目で改行したり、新出用語にはふりがなを付けたりすることで、理解しやすい表記となるよう配慮されている。	小学校や前学年で学んだ用語を必要に応じて側注に示したり、文章の改行の位置を工夫したりすることで、読みやすくなるよう配慮されている。
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。	各章の「章とびら」では、写真や挿絵を用いたストーリー性のある題材構成とすることで、学習意欲を高め、単元全体で問題を解決できるよう配慮されている。	各章の冒頭では、写真や図表、イラストなどを用いて活動や課題のイメージを捉えやすくすることで、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。	学習課題をページ上部に配置し枠囲みで強調することで、目的意識をもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。	重要事項を赤枠で囲んで強調したり、例や例題にタイトルをつけて内容を示したりすることで、読みやすくなるよう配慮されている。

Ⅲ　具体項目

観点	発行者	学　図	教　出
1	教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長		
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。	気温と海面水位の上昇などSDGs に関連した題材を用いることで、自然を大切にし、郷土を愛する態度を養うことができるよう配慮されている。	「章とびら」や「数学の広場」、「数学の広場＋」では、数学に関連する日本の伝統文化を紹介するとともに、他国の数学の歴史を紹介することで、数学の普遍性を感じることができるよう配慮されている。
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。	１年「データの活用」において、全国の都道府県の人口と自分たちの住む県の人口を比較する活動が取り入れられている。	３年「三平方の定理」において、身の回りにある山の頂上から見渡すことができる距離を、三平方の定理を用いて求める活動が取り入れられている。
2	学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長		
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。	「計算力を高めよう」「確かめよう」を設けるとともに、本文中の「例」について、ノート形式で模範的な解答の書き方を示すことで、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。	章の冒頭には「学習する前に」、章末には「学習のまとめ」を設けるとともに、「例」と「問」の間に「たしかめ」を配置することで、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。	身の回りの事象の中から問題を発見し、考察したり、性質を見いだしたりする「数学的活動のページ」を設けることで、数学的な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	「学びのプロセス」を設け、問題発見・解決の過程を意識して取り組めるようにすることで、数学的な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。	「Q」では、解決に向けた見通しを立てる場面で「目標」を設定し、学習を進める中で発見した新たな疑問を次の学習につなげる構成とすることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	章の導入「Let's Try」や導入課題「Q」では、作業や調査などの活動に取り組んだり、新しい方法や性質を見いだしたりする問題場面を設定することで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。
(4)	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感することができるよう工夫されているか。	「数学へのいざない」「章のまとめの問題」「深めよう」などで、身の回りで数学が役立っている場面を取り上げることで、数学の有用性を実感することができるよう工夫されている。 節の導入で、具体物を操作する活動と、数学的に考えたり説明したりする活動を結び付ける場面を設定することで、数学的活動の楽しさやよさを実感することができるよう工夫されている。	「章とびら」で、実社会や日常生活、先端テクノロジーなどの数学にかかわる話題を取り上げることで、数学を学ぶことの必要性を実感することができるよう工夫されている。 「数学しごと人」では、社会で活躍している方へのインタビュー内容を掲載することで、実社会で数学が役立っていることや数学を学ぶ意義が実感できるよう工夫されている。
(5)	一度学習した内容を再度学習できるようにするなど、学び直しの機会が適切に設定されているか。	領域ごとの「ふりかえり」のページや側注の「ふりかえり」を設けることで、前学年までの学習内容とのつながりを意識したり、既習内容を確認したりすることができるよう工夫されている。 「計算力を高めよう」や「確かめよう」で、どのページで学んだ内容であるかを確認しながら繰り返し練習する機会を設けることで、学習内容の定着を図ることができるよう工夫されている。	巻末に、本文の「たしかめ」や「問」の類題に取り組む「補充問題」を設けることで、繰り返し練習し、学習内容の理解を深めることができるよう工夫されている。 章の学習の側注などに、既習内容や振り返りのよりどころとなるページへ戻るための「もどって確認」「学びのマップ」を設けることで、学習内容の定着を図ることができるよう工夫されている。
(6)	各領域の内容を関連付けて見いだした課題を解決したり、解決の過程を振り返って考えを深めたりする学習ができるよう工夫されているか。	章末の「深めよう」、巻末の「疑問を考えよう」で、章ごとの学習内容に加えて、他の領域、他の教科と関連付けた学習課題を設定することで、考えを深めることができるよう工夫されている。 各学年の「方程式の解き方」では、解き方を振り返って見直し、より効率的な方法を見いだす学習の流れを設定することで、解決の過程を振り返って考えを深めることができるよう工夫されている。	吹き出しに「羅針盤マーク」を付けて、問題を解決する場面で働かせてほしい見方・考え方を繰り返し示すことで、見方・考え方を働かせながら、考えを深めることができるよう工夫されている。 数学の学習で働かせたい見方・考え方を、既習の具体的な事例を基に紹介した「大切にしたい数学的な見方・考え方」を巻頭に示すことで、考えを深めることができるよう工夫されている。
3	学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長		
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。	文章を文節で改行し、読み取る段階でのつまずきがなくなるようにすることで、問題解決や思考に重点をおけるよう配慮されている。	文意を読み取りやすくするために、文章表現を簡潔にしたり、文節のまとまりなどで改行したりすることで、理解しやすくなるよう配慮されている。
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。	単元前の「ふりかえり」や巻末の「さらなる数学へ」では、図や挿絵を多く用いて内容を分かりやすくすることで、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。	巻末で、既習事項を図や挿絵で分かりやすくまとめたり、「学びのマップ」で学習内容の系統性を図示したりすることで、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。	作図や書き込みに用いる図を、ページの外側に配置することで、教科書上での作業がしやすいよう配慮されている。	小見出しの前後や指導の流れの区切りでは、適宜行間を空けることで、内容が読み取りやすくなるよう配慮されている。

観点	発行者	啓林館	数　研
1	教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長		
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。	「数学ライブラリー」や「学びをいかそう」などでは、日本の伝統模様や数学者の功績などの題材を取り上げることで、我が国の伝統文化や他国を尊重する態度を養うことができるよう配慮されている。	数学と実社会のつながりについての話題や、他教科の内容と関連付けた題材を掲載することで、幅広い知識と教養、柔軟な発想力と豊かな創造性を身に付けることができるよう配慮されている。
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。	２年「図形の調べ方」の証明において、「長崎ハタ揚げ大会」のハタの図形が活用され、３年「標本調査とデータの活用」においては、長崎県の平均睡眠時間のデータが掲載されている。	１年「正の数、負の数」において、長崎県の最高気温が掲載され、３年「平方根」の「学んだことを活用しよう」においては、地震に関して長崎県の震度とマグニチュードが掲載されている。
2	学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長		
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。	「例」や「例題」を数多く掲載し、その「例」「例題」にならって解くことができる「問」も十分に配置することで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。	新たな学びがスムーズに進むよう、章はじめに「ふりかえり」のページを設けるとともに、「例」や「問」を細かく配置することで、基礎的・基本的な知識・技能が無理なく習得できるよう工夫されている。
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。	自分の考えを整理し、説明したり、記述したりする「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」を設けることで、数学的な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	章末の活用問題で、視点を変えて考えたり、身の回りの問題の解決に取り組んだりする場面を設定することで、数学的な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。	節ごとの「学習のとびら」では、その節の学習内容を習得すれば解決できる身の回りの問題などを取り上げることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	新しい章に入る際には、自ら問いをもち、新しい内容の必要性を感じるよう活動を展開することで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。
(4)	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感することができるよう工夫されているか。	「学習のとびら」や「数学ライブラリー」で、数学が関係している身の回りの題材を取り上げることで、楽しく取り組みながら、数学を学ぶ意義や有用性を実感することができるよう工夫されている。 「学びを生かそう」で、興味・関心がわく題材を豊富に用意することで、数学を学ぶ意義や有用性を実感することができるよう工夫されている。	巻末の「数学旅行」で、数学に関連のある職業に就いている人へのインタビュー記事を掲載することで、数学を学ぶことの意義を実感することができるよう工夫されている。 「学んだことを活用しよう」で、身近な問題を数学的に解決する機会を豊富に設けることで、数学の有用性を実感することができるよう工夫されている。
(5)	一度学習した内容を再度学習できるようにするなど、学び直しの機会が適切に設定されているか。	巻末「数学広場」の「学びをふりかえろう」「力をつけよう」では、特に基本的な問題にマークをつけ、他の問題と区別して取り組みやすくすることで、定着を図ることができるよう工夫されている。 基礎・基本の問題を細かく示した「学びをたしかめよう」を設けることで、学習内容の確実な定着を図ることができるよう工夫されている。	繰り返し練習するための「練習問題」や基礎の定着を目的とした「確認問題」を節ごとに設けることで、既習事項を繰り返し学習し、理解を深めることができるよう工夫されている。 各単元の前に「ふりかえり」を設けることで、その章の学びに関連する既習事項を確認しながら学ぶことができるよう工夫されている。
(6)	各領域の内容を関連付けて見いだした課題を解決したり、解決の過程を振り返って考えを深めたりする学習ができるよう工夫されているか。	「〇〇の利用」の節の「ステップ」の課題では、問題解決をした後に、その結果を振り返って考えたり、発展的に考えたりする場面を設定することで、考えを深めることができるよう工夫されている。 新しい問題を見いだして学びを広げる場面や、問題を解決する場面において働かせる数学的な見方・考え方を本文中に下線を付して示すことで、考えを深めることができるよう工夫されている。	全編にわたって、多様な方法で取り組むことができる課題や既習の方法では解決できない課題を織り交ぜることで、解決過程を振り返って、考えを深めることができるよう工夫されている。 生徒キャラクターが課題に対して試行錯誤する中で、ときには誤った考えを述べることで、解決の過程を批判的に振り返り、考えを深めることができるよう工夫されている。
3	学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長		
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。	文章を文節で改行したり、漢字には、学習段階も考慮して、適切にふりがなを付けたりすることで、読み取りやすくなるよう配慮されている。	１年では、文末表現に「～しましょう」という問いかけを採用することで、算数から数学に変わった抵抗感を軽減するよう配慮されている。
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。	巻頭で、挿絵を用いてノートのとり方を解説したり、「数学ライブラリー」で、数学の歴史や数学を生かす生活場面を提示したりすることで、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。	巻頭にガイダンスページを設け、学習の進め方やノートのつくり方について、挿絵を用いて分かりやすく説明することで、学びの手助けとなるよう配慮されている。
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。	本文と「例」、「例」と「問」などの間はスペースを空け、区切りごとにまとまりをもたせることで、読みやすくなるよう配慮されている。	グラフや図をかく問題、長さや角度を測る問題については、紙面の外側に図を配置することで、書き込んだり測定したりしやすくなるよう配慮されている。

Ⅲ　具体項目

観点	発行者	日　文	
1	教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長		
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。	我が国の伝統と文化に親しむ題材や国際社会との関わりに関心がもてる題材を取り上げることで、国を愛する心や国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう配慮されている。	
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。	２年「データの比較」において、大阪の猛暑日に関する過去６０年分のデータが扱われており、本県と関連付けて学ぶことができる。	
2	学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長		
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。	章のはじめ「次の章を学ぶ前に」で既習事項を確認するとともに、本文中の「例」に見出しを付し学習内容を理解しやすくすることで、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。	
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。	「学び合おう」では、切り離して使える「対話シート」を使って、協働的な学びを仕組むことで、数学的な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。	「学び合おう」では、日常生活や社会の事象、数学の事象から問題を見いだし解決する過程を丁寧に示すことで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	
(4)	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感することができるよう工夫されているか。	「身近なことがら」から数学の問題を見いだし、問題を解決する機会を設定することで、数学のよさや有用性を実感することができるよう工夫されている。	
		「数学のたんけん」や「SDGsと数学」、「数学を仕事に生かす」などで、様々な場面で数学が活用されていることを知る機会を設定することで、数学の有用性を実感することができるよう工夫されている。	
(5)	一度学習した内容を再度学習できるようにするなど、学び直しの機会が適切に設定されているか。	章のはじめに「次の章を学ぶ前に」を、各節に適宜「Q・確かめよう」「確かめ」を設けることで、既習事項を必要な場面で確かめながら学習を進めることができるよう工夫されている。	
		「基本の問題」や「章の問題」で、その節や章で学んだ基礎的・基本的な内容について、十分な量の問題に取り組む機会を設けることで、学習内容の定着を図ることができるよう工夫されている。	
(6)	各領域の内容を関連付けて見いだした課題を解決したり、解決の過程を振り返って考えを深めたりする学習ができるよう工夫されているか。	学習場面における振り返りの観点を明示した「学び合おう」や「ふり返りシート」を設けることで、学びの過程や変容を捉えながら、考えを深めることができるよう工夫されている。	
		各章の「学びに向かう力を育てよう」では、多様な考え方を問う問題や条件を変えて考える問題を設定することで、学習内容を振り返りながら考えを深めることができるよう工夫されている。	
3	学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長		
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。	文章を読みやすい位置で改行したり、図中の文字を大きくしたりすることで、情報が読み取りやすくなるよう配慮されている。	
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。	キャラクターを使って間違えやすい箇所について注意喚起をしたり、生徒の吹き出しやノート風の枠を使って数学的な表現例を示したりすることで、学習内容が理解しやすくなるよう配慮されている。	
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。	重要語句を目立たせたり、図表では、線を太く数字を大きく表示したりすることで、読み取りやすくなるよう配慮されている。	